

社団法人私立大学情報教育協会
第5回 CCC 国際関係学グループ運営委員会議事概要

- I. 日時:2009年12月21日 午前11時～午後1時
- II. 場所:社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者:委員(多賀、大崎、林)、事務局(事務局長、井端、森下、恩田)

IV. 検討事項

1. 学士力の考察について報告

事務局より、前回までの委員会で作成した27分野の学士力の考察について結果報告があった。作成した学士力の考察を昨年の11月25日に開催された私情協時総会で報告、会員大学、大学団体、文部科学省に報告・提言を行ったことが報告され、今後の計画として、情報教育に取り組むことが説明された。

情報教育については現在までにほとんど検討されていないため、私情協としては今後、情報教育について取り組む旨を説明した。この体育委員会でも検討していただき、最終的には教員の教育力についても検討していくことを述べた。また、資料(4)情報教育委員会及び分科会のイメージについて説明した。

2. 国際関係学における情報教育について

本日の委員会では作成した学士力を実現するために、学生に身につけて欲しいIT活用能力と技術力とそのため教育方法であることを述べ、具体的には、国際関係学の情報教育の到達目標、学生に身につけて欲しい。

情報活用能力と技術力、知識、技能等と説明した。しかし、国際関係学固有のものは難しいため、国際関係学を学ぶ上で身につけて欲しい能力について検討し、他の委員会で作成したものを参考に意見を出し合い、作成していくこととなった。下記に意見の一部を記す。

3. 委員の意見

各委員からそれぞれの大学で取り組んでいる、情報教育について資料により報告があった。多言語対応、メディアリテラシー、メディア教育、プレゼンテーション、マルチメディア実習等国際関係学としては情報の収集(定性データ、定量データ)、分析、説明、表現、発表が最重要であり、このための世界的な情報の所在、場所、外国語を含む適正な情報の収集が重要との意見が出された。

このための目標として

- ① 適切な文献検索、資料の収集、整理
- ② 客観的な手法で分析できる力
- ③ 剽窃などに対する倫理観 などが大切である。

これらを情報処理などの評価の視点で検討することになった。

4. 今後のスケジュールについて

今回の意見をもとに各委員が原案を作成し次回(2月)までのまとめることにした。

以上